

# かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議 事務局長 芝 忠  
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター5F  
TEL045-633-5192 FAX045-633-5194  
Email：zan25564@nifty.com http://www.kanagawa-iguren.com

## ！最近の話題から！

芝 忠

最近の“かながわ異グ連”の関連情報に触れます。

2月に開催された“テクニカルショウヨコハマ2004”は、開催期間が3日間となった平成9年度以来で、最大の入場者（36,813人）を数えました。“かながわ異グ連”も従来からのグループ展示（異グ連、C&S、KIK）以外に、ロケット、道路舗装、公的補助金の各プロジェクトが健闘しました。山口県異業種グループ連絡協議会からの出展も定着いたしました。

ロケットや道路舗装プロジェクトは、いよいよ新年度早々の4月には共同出資の新会社設立に踏み込む予定となりました。法人化といえ、昨年「安全食品株式会社」を設立しておりますが、この8年間に“異グ連”が設立支援した企業はすでに7社となっています。本年中には10社になるかもしれません。異業種交流がベンチャー企業を育成しているということをもっとPRする必要があります。

またロケットプロジェクトでは文部科学省や経済産業省を訪問して、改めて「日本の製造業の活性化策」や「地域における事業連携策」が重要であり、促進すべきものと認識しました。我々の取り組みの方向性は正しいということの確信をもちました。

なお、これらの課題については**4月28日（水）午後、神奈川県異業種グループ連絡会議の20周年記念行事**の場で取り上げたいと思っています。皆様万障お繰り合わせの上、ご参加をお願い申し上げます。

## 主要な“かながわ異グ連”のプロジェクト、及び研究会の活動報告

### 公的補助金プロジェクト

松井BC記

2月4日～6日に開催されたテクニカルショウヨコハマ2004では、異グ連ブースに当プロジェクトの相談コーナーを設け、会員が交代で相談に当たった。具体的に相談票を書いた件数は8件であったが、多数の方からの照会があり、また4日にはミニセミナーにはセミナー会場が満席になるなど関心の高さが伺われました。

2月26日には、中小企業センターで第2回補助金普及セミナーを開催しました。第3回は3月16日に行う予定です。

#### 第3回公的補助金活用セミナー（開催予定）

日時：平成16年3月16日（火）14:00～17:00

会場：(財)神奈川中小企業センター13F第2会議室  
セミナー：

「あなたに補助金が取れる方法を伝授します」

講師：かながわ異グ連事務局長 芝 忠

会場費：資料代として1,000円頂きます。

無料個別相談：

セミナー終了後、会場にて1社30分程度の無料個別相談を承ります。

なお、申請書の記入指導まで必要になりましたら、別途日時・場所・担当を決めて対応いたします（但し有償になります）

お申し込み：03-3209-0841 志岐

### 都市（関内）再生プロジェクト

織方BC記

2月12日（木）開催のプロジェクト会議で、関内地区の空きビルのうち4件（南仲通1件、常盤町2件、長者町1件）について、空きビル(室)の用途転換提言を行うことになり、プロジェクトメンバーが分担して提言書をまとめることとしました。

華々しく2月1日地下鉄“みなとみらい線”が開通しましたが、関内地区を歩いてみれば「入居者募集」のポスターが余りにも多いのに、今更ながら驚く次第です。早急な地域活性化策が必要であると改めて感じます。

### 三浦深層水事業化プロジェクト

八幡BC記

水ぬるむ2月28日（土）、会長の経営する豆腐製造工場を見学しました。各製造工程に特徴ある設備投資がなされており、また深層水の利用により豆乳の味が旨みをまし、焼き豆腐は色目も卵を加えたような黄みを漂わせています。商品の差別化に絶えず工夫を凝らしている「ものづくり」の原点を勉強させられた次第です。

またメンバーが互いに持ち寄った情報を交換し、三浦半島の活性化を如何に考えるかを話し合いました。その様な中で、1年間続けて来た楽しむ会は、消費者の立場からさらに飛躍する時点にあることを確認できました。

BC：神奈川中小企業センター・ビジネスコーディネータ

AD：かながわ異グ連・交流アドバイザー

<p><b>新防食技術活用プロジェクト</b> 田中(繁)BC記          3月3日(水)20名余の参加者をえて、かながわ労働プラザで「防食対策&amp;防食技術活用セミナー」開催しました。          横浜国立大学朝倉教授から腐食対策の基本的な話があり、現状の技術で可能な腐食対策をきちんと実施すれば、日本全体で1兆円もの腐食による損失の節減が出来るとの提言があった。また、ステンレスの腐食対策、新しい鉄アルミ合金メッキ、飽和ポリエステル粉体塗装等の話もあり、防食には大きなビジネスチャンスがあることを再認識しました。          講演会終了後に開催した防食相談会には4社の中小企業が相談に参加し、講師の方々の詳しい説明で、問題となっている腐食対策も解決出来ると成果を持って帰えられた。中身の濃い、充実したセミナーでした。          異業種交流で得た成果を一般中小企業にも開示し、防食技術の相談にも乗る試みは今回が最初でしたが、参加者からは大変喜ばれたので、再度企画する積りです。</p>	<p><b>異業種交流活性化研究会</b> 島津(龍)BC記          テーマ「成果を生み出す異業種交流とはどうあるべきか」を主題として自由討議を続けています。          ①まず「国の中小企業施策の動向」について：「産学交流」「創業ベンチャー支援」へ比重を移している。平成16年度予算の成り行きからもうなずけます。          ②かえりみて、“かながわ異グ連”はどうか：芝局長は“広域化”から突破口を見つけよと言う。他と足並みをそろえるより、まず自分の足下から実をあげて行くことであろう。          ③「横浜・川崎・横須賀各交流サロン」はどうか：まだ緒に就いたばかりなので動きが見えない。各サロンのバランスはともかく、それぞれの地区の有力団体との意思疎通が基盤に必要であろう。また「サロンの在り方」は3サロンで統一されたものになっていると思うがいかが？</p>
<p><b>中小商店活性化研究会</b> 相楽AD記          3月1日(月)午後、茅ヶ崎市商店会連合会の会長・副会長・事務局長と懇談しました。そして、近隣商店街を見学しました。          茅ヶ崎市商店会は「エコシテイ茅ヶ崎」を目指して茅ヶ崎商工会議所とともに活動しています。エコに焦点を当てた「エコレンタサイクル」「エコ商品」「生ごみ堆肥化」「マイ・バッグ」「リターナブルワイン」など“まちの困った問題”を解決するために活動している様子を岩澤会長他から、伺いました。          「生ごみ堆肥」も空地を借りて自然風を実施しているが、農家は受け取ってくれないとのこと、また「リターナブルワイン」のビン回収率は1割程度とのこと、なかなか悩みが多そうです。          茅ヶ崎市のセミナーが3月9日に実施され、神奈川異グ連の芝忠事務局長が講演しました。従来から活動が“ものづくり”では知られていた“かながわ異グ連”に、今回は商店街や個店の活性化についての活動から芝事務局長宛、講演依頼がきたものです。</p>	<p><b>韓国(第40回日韓ビジネス協議会)</b> 高橋BC記          2月25日(水)参加者は15名で開催されました。          ●日韓産業技術協力財団の最近の状況(専務理事 成田洋助氏) ●韓国機械産業の対中国市場戦略について(日本総研主任研究員・韓国漢陽大学校国際学大学院教授 石田賢氏)等の興味深いお話を伺いました。  <b>第41回日韓ビジネス協議会(開催予定)</b>          日時：3月24日(水)15:00~17:00          場所：(財)韓国貿易協会(東京・神谷町)          今回は李昶虎氏(経営学博士)が韓国に帰国しますので送別会も予定しています。参加はどなたも自由ですので関心ある企業の参加を歓迎致します。          参加申込み：045-311-0094 高橋</p>
<p style="text-align: center;"><b>異業種交流G事務局長会議報告</b> 渡部事務局次長</p> <p>神奈川県異業種グループ連絡会議では恒常的な定例会議を幾つか設けておりますが、中でも標記「異業種交流G事務局長会議」は、“かながわ異グ連”への参加各団体(異業種交流グループ、プロジェクトグループ、任意グループ等)の事務局長及び南出議長、芝事務局長、渡部次長(司会)が一堂に会し、活動状況を発表し忌憚ない意見を述べ合う重要な会議です。          さて昨年10月以降、テーマ「<b>新設予定の産学官交流サロンへの期待と役割</b>」で計4回の討論を重ね、この度“かわさき経済人ネットワークサロン”(2月25日)、“三浦半島経済人サロン”(3月11日)の開催に至りました。準備段階での主な意見を参考までに紹介します。</p>	

## 「新設予定の産学官交流サロンへの期待と役割」主な意見！ 事務局長会議から・渡部

- ①一過性、単年度制を基本とする公的機関の創業相談・技術相談・経営相談等の補完機能を期待したい。
- ②異業種交流未経験者が交流サロンで、その一端に触れることが出来る。
- ③いささかマンネリ化しつつある異業種交流のあり方を今一度、本来の有り方を模索できる“場”の提供が出来ないか。
- ④技術市場交流プラザに代表される行政主導型の異業種交流の良さを継承しつつ、民主導のフラットなネットワークの運営方法、成果創出ノウハウ等々の試行の“場”として期待したい。
- ⑤交流サロンを機能化するためには縁の下の力持ち的人材（事務局体制）が必要であり、そのために協議会や事務局自体がどうあるべきかも重要な課題である。ボスのなリーダーを頂点とした縦割り組織では不可能であろう。
- ⑥アウトサイダーでは何も出来ない、官との融合も重要である。普遍的なサービスを基本とする官を取り込むには、一般化・大衆化（人と情報を集める仕掛け造りと実績）が重要である。それが官の硬直性に対して対抗できる大きな武器である。
- ⑦交流サロンは常に内容を刷新し継続させる事で充実し、人・情報が集まる。  
人が来ればそこに情報が集まる。情報が集まれば新たな創発に繋がる。
- ⑧場を提供してくれる支援組織の存在も重要である（常設会場を設け色々なメニューを生み出す）。
- ⑨参加しやすい雰囲気作りが必要である。袷を付けず、フランク＆フレンドリーな個人主体の会としたい。

等々

### 産学官交流サロン

## ！第1回かわさき経済人ネットワークサロンが開催されました！

田中（繁夫）BC記

2月25日（水）川崎市溝口の（株）ケイエスピーで、第1回会合を開催した。当日は35名の参加者があり、最初に神奈川県異グ連 南出議長の発足の挨拶があった後、（株）KSP 志茂取締役から最近にKSPのインキュベーション活動の話があり、つづいてKSPのテナントであるプラネットワークス（株）猿渡社長の事業紹介とそれに関する参加者からのアドバイスを受けた。（株）KSPは民間からの社長を迎え、新しい第2号ファンドを設立し、ハイテクベンチャーを育てる積極的なインキュベーターとしての事業戦略を紹介し、参加者の注目を集めた。

7時からは1000円会費の懇親会に入り、参加者の方からは各人の活動を紹介して頂いた。アジア起業家村の推進者、音楽都市川崎の支援者、夢の実現を支援するNPO法人、中小企業の国際化を支援するコンサルタントグループ、中小企業のIT化推進、将来起業を目指している小学校の事務官、大師河原の歴史探訪クラブ、産学連携を推進する和光大学教授、産業活性化を推進する産業クラスター研究会、新商品開発の中小企業の社長等、多彩の人材が参加されており、今後のサロン活動に大きな期待が持てた。参加者からもなかなか良いサロンだったとのご評価を頂き、10名の方が2次会にも参加した。

**次回は4月27日（火）（原則として偶数月の第4火曜日）の6時から新川崎駅のKBIC（新産業創造センター）で開催されます。ぜひ多数のご参加を期待します。**

\*3月11日開催の三浦半島経済人サロンの報告は、次号（19号）とさせていただきます。事務局

## 異業種交流活動への提言



（財）産業研究所が毎年、中小企業異業種交流財団へ委託し発行している「異業種交流活動の課題と政策措置に関する調査研究書」へ、今年度もかながわ異グ連事務局長・芝忠が、委員の一人として課題提言をさせていただきました。調査研究書の発行前ですが、全文掲載できず要約にまとめて紹介いたします。

多方面からのご意見・提言をお寄せいただき、議論を深められればと思います。

要約まとめ かながわ異グ連事務局（原文 芝忠）

### <現在の異業種交流活動の課題>

30数年前に始まった「異業種交流」は、現在国内で約3000グループ、約13万事業所が参加している。また韓国、台湾、タイ、マレーシア、香港、シンガポール、中国と広域化・国際化している。しかし共同製品開発の困難性から、軸足が経営革新、人材育成等へ移ると共に、より広域性・異質性を求めた広域ネットワークの構築や特定テーマ別事業化促進プロジェクト方式等が、新しい活動として注目され始めている。

#### 課題(1)：交流成果（目的）の認識

企業の課題が多様であると同様に、求める交流成果は参加者によりまちまちである。参加者は自らの目的を明確化し、目的に合った交流の進め方を学ぶ必要がある。参考として筆者提唱の「異業種交流7つの成果」（1988「新分野進出の切り札、異業種交流のすすめ」日本経営新聞社）を改めて参照されたい。

①経営者のリフレッシュ、視野の広がり、②社内合理化、経営管理のレベルアップ、③情報収集、④商品開発、技術開発、販路開拓、新事業展開、⑤人材育成と確保、⑥集団化のメリット、⑦地域経済活性化。

#### 課題(2)：経営革新に到る交流手法の研鑽

中小企業基本法で言う「新商品の開発・生産」「新役務（サービス）の開発・提供」「既存商品の新生産・新販売方式の導入」「既存役務（サービス）の新提供方式導入」「新たな経営管理方式導入」等々の多様な成果を生み出すための異業種交流手法を研鑽・理解したい。

#### 課題(3)：広域ネットワークへの参画

自社・個人または同業種内での狭いネットワークでの情報不足のため、異業種交流が発祥した。より異質性・多様性を求め、グループからグループ間へ、さらに広域地域ネットワークへと拡大していく。

ネットワークには限界は無く交流の成果を求め、積極的な広域ネットワークへの参加が重要である。そのための“場”は準備されている。

#### 課題(4)：共同事業への取り組み

異業種による範囲の経済（共同製品開発等）は、融合化法による国の支援もあり、当初の頃よりの直接的成果目標であったが、販売面での成果が得られず、また共同作業のための企業最適組み合わせがなかなか実現できないという問題が発生している。しかし経営資源の乏しい自社1社での開発事業化はさらに至難の業であり、「真に効果のある同業または異業種による事業連携ネットワーク」が必要である。

具体的な事業連携の進め方については、かながわ異グ連が進めつつある「特定テーマ別事業化促進プロジェクト」方式が参考にして頂けるのではないかと。

#### 課題(5)：時代のニーズを捉えた新分野進出・新テーマ設定

国産ロケット部品の国内調達率は約3割強とのこと。かながわ異グ連では、H14年秋に「満天プロジェクト」という研究会を発足させた。その後東京大田区の関連団体とも連携し、神奈川・東京の中小企業30社により「航空・宇宙開発関連部品調達支援プロジェクト」がH15年9月に発足した。宇宙航空研究開発機構（JAXA）の期待と、高精度・難加工・低価格に挑戦して“ものづくり基盤”維持をしたい中小企業との思いが重なった事業である。H16年度早々には法人化し、参加企業100社を目指している。

その他時代のニーズを捉えたプロジェクトとして、「高機能環境舗装プロジェクト」「安全食品供給プロジェクト」「都市再生プロジェクト」「自立社会構築プロジェクト」等々が「特定テーマ別事業化促進プロジェクト」方式で進められている。

#### 課題(6)：世代交代を考慮する

活動の停滞や、グループの解散理由の一つとして「世代交代の失敗」があげられる。異業種交流グループ設立の頃より、後継者を参加させるとか、別途分科会方式で「次世代経営幹部会」等を設ける等の工夫が必要である。

### <異業種交流を支援する側での課題>

以上のような先進的課題を推進する母体としての異業種交流グループの地域連合体（協議会等）や支援団体は、人・物・金・情報等の経営資源の充実が必要である。前年踏襲の事務処理のみでは対処できない。そのためには、国の支援や全国的経験交流の“場”の設置が望まれる。また「企業間連携コーディネータ」の育成確保が急務であり、専門家集団（士族）の協力が必須である。

またプロジェクト方式を進めるためには「公的補助金活用・普及」が有効であり、全国の連合体（協議会等）での取り組みが期待される。

以上

（要約のため、正確にお伝え出来なかったと思われます。ぜひ調査研究書本文を参照ください。異グ連事務局スタッフ）